

# 信淨寺だより

94号 二〇一六年一月

## ひと・いのち

二〇一五年九月五日・六日両日に全日本佛教徒会議が、大阪にて開催されました。その成果として大会宣言がされました。

ひと・いのちは、まことに在りがたいもので尊ばれ慈しまれるべきものである

ひと・いのちは、自然の一部であり、その法、摂理を尊重すべきものである

ひと・いのちは、生まれれば、やがては老い、病み、死んでいくものである

大会宣言を読めば誰でもその通りで、当然まもられるものだと考えると思いますが、今世界を見まわせば、そうはなつていなことが多いのではないか。いのちの重さをそれぞれが勝手な解釈で決めてしまっている。自分に都合の悪い相手の命は軽く扱っている。そんな気がしてなりません。

ひと・いのちは、諸相の流れ、変化のなかにあり、死後もどまることはない

ひと・いのちは、中庸と利他、融和と非戦の精神により生かされるべきである

ひと・いのちは、人知の成果である、倫理と規範により生かさるべきである

以上は、佛教徒として「たいせつなもの」は何かということを佛教精神に照らして出されたものです。この大会のテーマは「無量の『いのち』すべてのいのちを慈しむ」とされています。無量の『いのち』は「無量寿」であり、浄土真宗だけではなくすべての佛教の最も大切なものです。

「多くのいのちとみなさまのおかげによりこのご馳走をめぐ

まれました」ということばですが、以前は、「み仏とみなさまの

おかげによりこの『馳走をめぐまれました』ということばでした。

多くの命はみ仏のいのち。すべての衆生(生きとし生けるもの)は、

やがては仏となつていく身。そんな意味です。ほかの生き物のい

のちを同様に考えるのは難しいかもしません。しかしそめて同

じ人間のいのちはどうかということをまず考えてみましょう。

全日本仏教徒大会に合わせて世界仏教徒連盟の執行役員会議

も開かれました。また仏教だけではなく、諸宗教対話フォーラム

「未来社会における宗教の役割」も開かれ、キリスト教、イスラ

ム教、神道の方々も参加されました。テーマは「すべての『いの

ち』を慈しむ」です。他の宗教でも慈悲の心、平和を求める心が

大切にされた意見が出されました。司会をされた釈徹宗氏は、最

後に「どの宗教でも、人間の過剰な欲望への視点を持つているこ

とは確かです。宗教だからこそ提示できる視点があることを私は

信じています。」と述べられました。宗教の大切さをもう一度考

えてみませんか。

## 信淨寺行事予定

元旦会 一月一日 午前九時 (信淨寺本堂)

一年の始まりは、お寺への参拝から

朝九時だけではなく、いつでも参拝いただけます。

二〇二六年は四月十二日に「花まつり」九月二十日に「落語会」

を計画しています。大人も子供もだれでも参加できるようになると

考えています。役員さんたちと内容を検討中です。詳しく決まりましたら、お知らせします。

## 本願寺御正忌報恩講

一月九日から十六日まで

## 岐阜別院彼岸会法要

三月十九日から二十一日

是非、ご参拝ください。